

2025年5月10日

人権ネットワーク八幡

NEWS

事務局 〒523-0857 近江八幡市八幡町170(旧八幡教育集会所内)
電話 【携帯】 080-2525-7114(高坂)
【メール】 Tko_koj1224@yahoo.co.jp

いと をかし ~今年度も皆さんと、ご縁が ありますように！~

つれづれなるままに 日暮し 駄菓子屋を営む。日々 訪れる子らの姿こそ いとをかし。

小さなお客さまにとっては「初めてのお買い物」体験になることが多くある我が駄菓子屋。
「ほら見て〜。このおさいふ〜」新品の財布を見せてくれないながら、満面の笑顔。
「そりゃ、ステキな財布やなあ。お客様、お会計は115円になります」と私。
…ってなことを言われても115円がすぐに出せる訳はない。急ぐことはない。お客さまはオンリーワン。

いつもと同様この日も、「ほな、ここにお金 全部出してみ〜」とトレーを差し出す。そして、「100って書いてる白いお金探して〜」「ほな次は、10って書いてる茶色いお金探して〜」と、こまではとんとん拍子で進んでいった。

「最後は5って書いてるで〜。穴のあいた黄色いお金探して〜」

「おばちゃん、5がない!」「えっ、そんなアホな」とよく見れば、5円玉だけ、なぜか「五」なのである。

「ほんまやなあ。すごい!大発見や!」と感激しているばあばに、
「な、ゆうたやろ」とお客さまもニヤニヤ。

「五円玉」を調べてみれば、私的には知らなかったこと多し。

終戦後に焼野原となった日本で、大砲の薬きょうを潰した材料から五円玉は鑄造されており、
《平和に暮らせますように》《民主主義への希望》《日本の主要な産業が盛んになって国が栄えますように》という願いが刻まれている、とのこと。ちなみに、表の絵柄で《稲穂》は農業を象徴。
《水面(稲穂の根元の複数の水平線)》は水産業を。《歯車(穴の周り)》は工業を表す。裏の絵柄で《双葉》は林業や民主主義に向かって伸びていく日本を表す。とあった。(まるで、5年生の社会科やあ!)

「ゆっくり」の中にある「気づき」の機会を小さなお客さまからいただいた一日。そして、小さな「気づき」を共有できる瞬間の喜びを大切にしたいと感じた新年度のスタートでした。駄菓子屋オリキキ、今年度も皆さまと「ごえん」がありますように。今日の所は、これにて閉店。



海外よもやま話④

「人は到着するためではなく、旅するために旅をする
by ゲーテ」

風の吹くまま気の向くまま、明日の宿は明日決める、海外放浪一人旅。今日は中国のお話。



2008年4月、僕は1年間のユーラシア大陸陸路横断の旅をスタートしました。大学に行かせてもらい、せっかく仕事にもありつけたのになぜそれを捨ててまで旅になど出るのか?意味が分からんと祖母は泣いていました。趣味が読書や映画鑑賞なら、ばあちゃんを泣かさずにすんだのに、バックパッカーなどという親不孝な趣味を持ってしまったばかりに。。でもそれはもう趣味ではなく、いつしか僕の夢になってしまっていたので。

2008年4月14日西安にて、「日本を出てまだ1週間も経ってへんのかあ」と当時24歳の僕は日記に書いていました。日本を出て5日、すでにホームシックでした笑。

2025年4月、仕事を辞めるわけでも旅に出るわけでもない。でも4月ってなんで毎年ちょっと新鮮で、ちょっとドキドキするんでしょうね。

Life is an adventureです。今年度も楽しんで生みましょう!

(K.Kisuke)

私と同年

八幡小学校教諭 荻野仁

八幡教育集会所十周年、おめでとうございます。

十年もたったのか、と感慨に耽（ふけ）ろうとしたとき、十年といえば自分が八幡小学校に赴任したのも十年前じゃないかと気づきました。

それじゃ、集会所と私の八幡小学校の先生としての年齢は同年なんや、と何やら嬉しくなっていました。でも、嬉しい気持ちは直ぐに冷や汗の出る思いに変わっていきます。

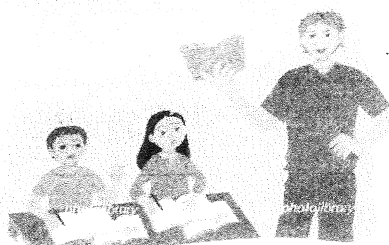
地域や集会所は日々、実践を重ねられ、確実に前進しておられるというのに、自分はこの十年間、何をしてくださろうと顧みたとき、語れるものがないことに気づいたからです。忙しい、何をすればよいのか分からない、と言うことを理由に部落解放から一歩下がったところにいる自分の姿が思い浮かびます。

その頃、まだ、集会所の前には改良を待つお家があって、今では昔話となるような生活を彷彿（ほうふつ）とさせる様子が伺えました。そのお家を前にして、地区改良を子供と学習していました。教え、諭す者という立場で。

「先生。私の小さい頃、私の家、この集会所の下にあったんよ」、私はハッとします。分かったつもりで地域の先達の偉業を話している自分に赤面しそうでした。私は何にも知らないんだ。知らない者が何を偉そうに喋っているんだ。地区改良の学習のまとめの時、館長さんの話を聞く子供のつぶやきが、聞こえました。

「同和地区やて。やっぱしー」知らないことは地区のことだけじゃない。子供のことを分かっている。こうして、私の八幡での取り組みが始まりました。

* アーカイブ第7弾は、八幡小の名物先生の登場？です。当時、八幡小に在籍していた方や保護者の方なら、鮮明に記憶されている方も多いと思います。



人権映画見て歩記

file 113

アメリカ・イギリス合作映画『教皇選挙』を紹介します。



バチカンでローマ法王が急逝しました。枢機卿リーダーのローレンスは世界中の枢機卿を集合させ、教皇選挙（コンクラベ）の準備にとりかかります。コンクラベにはルールがあります。選挙権・被選挙権は世界に120人しかいない枢機卿のみに与えられていて、3分の2以上の得票がなければ法王になることはできないのです。

1回目の投票で6名の枢機卿に票が集まりました。この6人で法王の座を奪い合う泥仕合が始まります。しかし単なる権力争いだけでない、もっと重要な意味がこの選挙にはありました。例えばベリーニ枢機卿。彼は「キリスト教にも多様性が必要だ」と主張し、同性愛や妊娠中絶を認め、他の宗教とも協調していこうと考えるリベラル派です。これに対してテデスコ枢機卿は伝統を重んじる保守派であり、リベラル派の考えには大反対です。ベンテス枢機卿はアフリカ人であり、黒人初の法王になるかもと注目を集めています。このように、選挙の行方によっては世界の方向性がガラリと変わってしまう可能性があるのです。

最初から混乱を極めるコンクラベのさなか、街ではテロリストによる爆破事件が起きていました。テロの脅威を前に不安な枢機卿たちは、保守派テデスコが主張する「テロ（イスラム）とは戦わねばならない！」という主張に傾きかけますが、そこでアフガンから来たベンテス枢機卿が主張します。「あなたたちは本当の戦争を知らない。私はこの目で戦争を見てきた。今大切なのは宗教戦争を防ぐことだ！」彼の叫びは多くの枢機卿の心をつかみ、何度目かのコンクラベの結果、なんとベンテスが法王に選ばれます。こうしてやっと新法王が決まろうとした時、ローレンスにとんでもない情報がもたらされます。コンクラベの結末やいかに!?

この映画は単なる教皇選挙の話ではありません。独裁者たちが各国のリーダーに当選している現実を前に、「私たちが選挙で投ずる一票がこれからの世界を決めていく」ということを訴えた上で、「理想の結末」を提示してみせた志の高い作品なのです。ローレンスも納得した最高の結末については、ぜひとも本編でご確認ください。（見て書いた人…渡邊幸平）